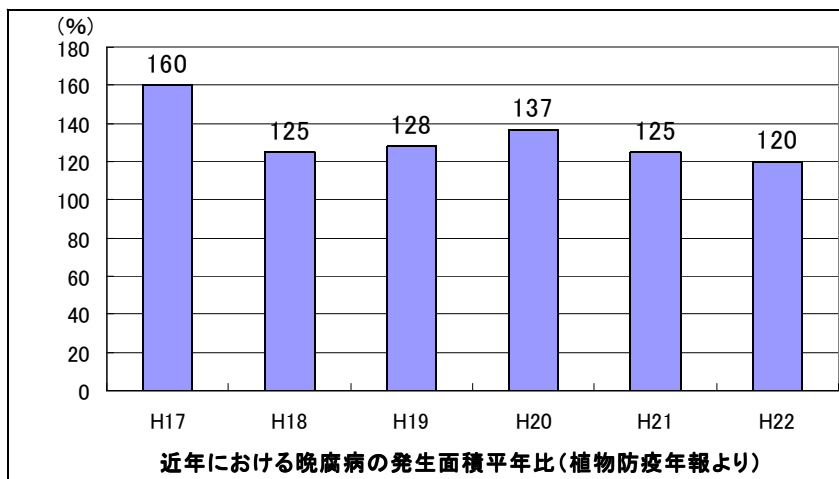


【ブドウ晩腐病の防除対策について】

[発生状況及び今後の見通し]

- (1)近年、巨峰・ピオーネ、甲斐路系等で、中間地から遅場を中心に発生量はやや多く、果実腐敗の主な原因となっている。
- (2)晩腐病の一次感染期を迎えており、生育はやや遅れているため、幼果期の多雨やカサ・袋かけ作業の遅れにより、感染が助長されることが懸念される。
- (3)平年より早く梅雨入りしており、今後も感染に好適な条件が続くものと予想されるため、以下の防除対策を徹底する。



成熟期の発病果粒

[防除対策]

- (1)伝染源となる胞子は、雨水とともに飛び散るので、果房に雨水を当てないように、**早期にカサや袋かけを行う。**
- (2)予備摘粒を実施し、早期カサ・袋かけを励行する。
- (3)摘粒が遅れる場合は、感染を防ぐため、先にカサをかけてから摘粒を行う。
- (4)防除暦や防除基準に準じて薬剤散布を徹底する。
散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前に散布する。
- (5)着色期以降、ほ場巡回を行い、二次伝染源となる発病果粒は除去し、園外に持ち出す。

農薬の使用に当たっては、使用基準を厳守し、飛散防止対策を徹底する。

